

施策番号 2-1-2	施策名 農業生産性の向上と農業の応援団づくり	基本目標	豊かな自然を生かした活力ある農業のまちづくり		
		政策名	基幹産業の農業に対する支援の強化		
	主管課 農林課	課長名	佐々木快治	内線	410
	施策関係課				

## 1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
環境に配慮した農業生産をすすめるとともに、本町農業・農畜産物の理解を促進し、農業の持続的発展を図ります。		農業経営体 耕作地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全型の農業生産をすすめる</li> <li>・先進的技術の導入による生産性向上が図られる</li> <li>・本町農業の応援団づくりを促進する</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に調和した農業の持続的な発展が図られる</li> <li>・地場産の農畜産物の理解、消費者との連携が促進され消費拡大が図られる</li> </ul>
成果指標	説明	単位	2011年度(策定時)	2017年度実績	2018年度実績	2018年度目標	
① 農業産出額	農業生産額(農業再生協議会)	億円	231.3	314.9	293.8	270.0	
② 日頃、地産地消を意識して買い物をしている町民の割合	住民意識調査	%	74.2	74.0	77.3	80.0	
③							
成果指標設定の考え方	①農業分野における成果としては、農業産出額は主な指標となると考え設定したもの。 ②前期計画の数値の推移などから、90%の目標値は達成困難と判断し、現実的な目標数値として80%としたもの。						

## 2. 施策の事業費

	2017年度決算	2018年度決算
施策事業費(千円)	145,112	338,066
人工数(業務量)	2,1092	2,9589

## 3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2018年度の成果評価(前年度比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	めむろ農業小学校や地産地消バスツアーを継続実施したことにより、食育・地産地消への意識付けとなり、住民意識調査の結果にもつながってきていると考える。
②第4期総合計画(後期実施計画)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	平成30年の農業生産額については、6月以降の長雨や日照不足により前年を下回る結果となったが、金額としては史上3番目の結果となったこと。また、地産地消を意識して買い物をしている町民の割合は上昇しており、少しずつ各施策の効果が出てきていると認識している。
(2) 施策の成果評価に対する第4期総合計画(後期実施計画)の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	めむろ農業小学校運営事業 地産地消協働推進事業 農作物有害鳥獣駆除事業 畜産クラスター協議会運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「芽室町食育推進計画」は、第3次の計画を策定した。</li> <li>・農作物有害鳥獣駆除事業では、残滓処理施設を設置し、適切に処理が行われている。また、鹿や熊だけではなく、アライグマによる被害を問題視する声も多くなってきている。</li> <li>・畜産クラスター事業については、畜産農家の生産基盤整備、労働力低減等に向けて成果があったと考えている。</li> <li>・農業ICTについては、検討会議等で情報提供・共有を図ってきたが、今後は実践的な行動が求められると考える。</li> </ul>		

**(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果**

	A	B	C	D	E
進捗結果				○	

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

**4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等**

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>畑作・畜産ともに、今後は農家戸数の減少に伴い、担い手への農地集積・経営規模拡大が予想される。引続き生産基盤整備の支援を進めていく必要があり、農業のICT化を含めた生産性向上の取組は非常に重要となってくる。</p> <p>また、本町の基幹産業である農業の重要性を町民に理解していただくために、第3次の食育推進計画の推進を図るとともに、「(仮称)芽室町農業振興計画」の策定にも取り組んでいく必要がある。</p>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	

**5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画期間において新たに取り組むべき課題)**

<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題① 農業の応援づくり～「めむる農業小学校」や「地産地消バスツアー」についての内容やプログラムの見直しを随時検討していくとともに、芽室町農業を応援する農業者以外の方々にも参画していただけるような、具体的な会議体の検討を進めていく。</li> <li>●課題② 農作物有害鳥獣対策～農業者への自主防衛意識啓発、残滓処理施設の効果的運用、電気柵設置の支援などを継続的に推進していくとともに、増加傾向にあるアライグマ被害については、外来生物法に基づく防除講習会の開催など、新たな取組も進めていく。</li> <li>●課題③ 「農業ICT化の推進」～JA、役場、生産者の役割を整理しながら、「芽室町ICT農業検討会議」において、具体的な取組を検討していく。</li> <li>●課題④ 畜産課題への対応～「芽室町における酪農基盤整備構想」に基づく町営牧場の運営体制強化や、生産性向上のため畜産クラスター事業をはじめとする効果的な補助事業の活用を継続していく。</li> </ul>
--

**6. 総合計画推進委員会(庁内評価)**

評価	<p>地産地消の意識の高まりなど、施策の成果が見られ、農業ICT化などの検討が進められるなど、策定時と比較して前進していると評価する。</p> <p>愛菜屋の売上も上がっており、町内外に芽室町の農産物のPRができていていると考える。</p>		A	B	C	D	E
進捗結果					○		
今後の取組に対する意見	<p>課題①については、理念的なものだけではなく、具体的な施策の検討を進めていく必要がある。</p>	<p>A: 実現した</p> <p>B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した</p> <p>C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した</p> <p>D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない</p> <p>E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した</p>					

**7. 総合計画審議会(外部評価)**

評価	<p>農業ICT化の検討は時代に合う取組である。また、ふるさと納税等でも町外に芽室の農産物が認知されつつある。庁内評価とおなじく策定時と比較して前進したと評価する。</p>		A	B	C	D	E
進捗結果					○		
今後の取組に対する意見	<p>・地産地消の意識については、愛菜屋だけでなく民間企業や商工会・観光物産協会とのタイアップや商工観光課との連携で、成果向上につなげてほしい。</p> <p>・ふるさと納税などで、芽室町以外の人にも芽室の農産物が認知されつつあるので、消費者に芽室産を届けられる取組が必要ではないか。</p>	<p>A: 実現した</p> <p>B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した</p> <p>C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した</p> <p>D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない</p> <p>E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した</p>					